

市之川公民館だより 令和2年2月号 (No.554号)

〒793-0037 西条市市之川6678-1 市之川地区人口「12月末現在」
Tel・Fax (0897) 56-3300 人口 14人(男6人・女8人)
eメール ichinokawa-k@saijo-city.jp 世帯数 9世帯

2月 如月 (きさらぎ)

暖冬とは言え、寒い日が続いております。

特に朝晩は防寒対策をしっかりしたいものです。

また、インフルエンザが流行っています。外出時の『マスク着用』や帰宅後の『うがい・手洗い』を心がけ、お健やかな日々をお過ごし下さい。



《2月の行事予定》

日	曜	行事・時刻・場所
8	土	からおけ会 10:00～ 集会室
11	火	祝 建国記念の日
22	土	からおけ会 10:00～ 集会室
23	月	祝 天皇誕生日

※ 公民館フェスティバル 1月19日(日)

西条高等学校商業科商業研究部(輝安KOU房)の生徒による研究発表が行われました。【西条市市之川鉱山産輝安鉱の新しい価値の創造に挑む～】

多くの市民に、輝安鉱の魅力を知らってもらうための具体的な活動として、西条駅東側にある観光交流センター内に『市之川鉱山資料パーク』を開設したい考えがあるそうです。

そして、郷土の先人が築いた市之川鉱山の歴史や輝安鉱の魅力を後世に伝えることは、今を生きる私たちの役割との発表があり、『世界に誇る輝きをあなたに!』で締めくくりました。



※ 大町小学校から、14名来館

12月27日(金)大町小学校の児童8名、保護者6人の計14名の方が市之川鉱山を学びに来てくれました。当日は、霰が降る寒い一日でしたが、鉱山資料室の見学の後、石割体験を行いました。その後、冷えた体をおしるこで温めるなど、学習会は大いに盛り上がりました。

鉱山資料室の見学



石割体験



※ おもちつき 12月28日(土)

カラオケ会の皆さんがおもちつきを行いました。



12月28日 公民館に生け花を飾りました



12月27日 準備



～毎月10日は人権を考える日～

部落問題と部落史に学ぶ（その①）

「差別」という関係が社会の中にあられた中世時代（鎌倉・室町時代）



京都・慈照寺（銀閣寺）

京都には、世界遺産として知られている名園が数々あります。室町時代に「善阿弥」という庭づくりの名人と、彼の子ども「小四郎」、孫の「又四郎」によって大成されたと言われています。彼らは「山水河原者」（せんずいかわらもの）と呼ばれ、自然風景をかたどる「山水庭園」を手がけていました。

同じく京都の「竜安寺」も、「山水河原者」と呼ばれていた人たちによって造られました。これらの庭は、日本の文化を代表するもので、禅の世界観を表現するための高い造園技術が必要であり、世界的な価値があります。



京都・慈照寺（銀閣寺）

古代（飛鳥時代・奈良時代・平安時代）には、貴族や朝廷にしかみられなかった「ケガレ」意識が、しだいに民衆のあいだにも広がっていきます。「ケガレ」とは、「人々の日常の状態が崩れてしまう」ことで、その状態に対して恐れをもつことです。今の時代のように、科学が発達していない時代ですから、自然界の秩序が崩れたり、災いや不幸が起こったり、人が死んだりすることを大変恐れていました。

特に恐れられたのが「三不浄」（死穢・産穢・血穢）で、人間や生き物が死ぬこと、出産、血を流すこと・・・などは日常の状態が崩れることだと考えられていたようです。

こういった「ケガレ」と考えられていたことは、人々が日常生活を営む上で必ず起こるものです。そこで、「正常な状態に戻したり、ケガレが伝染したりしないようにする」人たちが必要になってくるのです。つまり、「ケガレをキヨメル」ことができる人たちなのです。こういった役割を果たすことのできる「河原者（かわらもの）」といった人たちが登場してきます。

「ケガレ」を「キヨメ」ることのできる河原者の人たちは、河原に住んでいました。河原は、当時、天変地異により自由に流れを変える、人間の支配が及ばない場所であり、あの世とこの世の境目であったと考えられていたようです。また、「キヨメ」を行うための「水」が存在する場所でもあったのです。こうした人々は、神社や室町幕府の支配のもと、さまざまなところをキヨメル仕事に従事していました。清掃、片付け、芸能、工事、井戸掘り、造園などにたずさわっていたと考えられます。これらの人々は、「ケガレをキヨメルことのできる特別な能力をもつ人たち」で、「畏怖・畏敬」（かしこまる、おそれうやまう）の念をもつとともに、「自分たちとは違う」「排除の対象」の存在としてみられていきました。

根拠がなく非科学的・不合理な「ケガレ意識」が社会構造や人々の生活と結びつき、「差別」が生まれてきたのが、この中世の時代であったと言えます。しかし、中世から1,000年近く経った現代の私たちの生活の中に、この「ケガレ意識」と差別の関係が息づいていないのでしょうか。

参考文献 「部落史に学ぶ 1」 外川正明 解放出版
「これでわかった！部落の歴史」 上杉聡 解放出版
「ケガレの民俗誌」 宮田登 人文書院

西条市人権教育協議会 西条市人権擁護課

令和元年度西条市市民大学卒業記念講演会

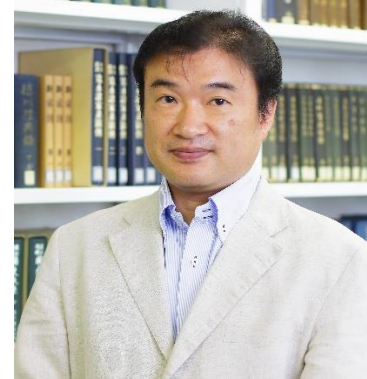
■演題 祭礼文化の原点を探る
－瀬戸内のだんじり
みこし・太鼓台

■とき 3月1日(日)
開場 13時
卒業式 13時30分
開演 13時45分

■ところ 西条市中央公民館 多目的ホール
(西条市周布401-1)

■受講料 無料

■問合せ 西条市中央公民館
TEL: 0898-65-4030



胡光(えべす ひかる) 先生
愛媛大学法文学部教授

(プロフィール)

昭和41年愛媛県西条市本町に生まれる。西条高校卒業84期。九州大学大学院博士課程を修了し、香川県庁に入庁。香川県歴史博物館建設や文化財管理に携わった。平成23年4月から、愛媛大学法文学部准教授として、日本史を担当している。現在、教授。四国遍路・世界の巡礼研究センター長。四国遍路、四国の大名、四国の祭礼の研究が専門。共著として『太鼓台の歴史』『四国遍路と山岳信仰』『四国の大名』などがある。

公民館のお花

パンジー



水仙



葉ボタン



文芸欄

- 石鎚の 山は白金 朝日さし
 - 暖冬で 屋根の芝も 芽を出して
 - じねんじょ 病い治るか とろろ汁
 - 夕暮に 寝床に帰る カモの群れ
 - 味も良く 我家のみかん いつまでも
 - 初採れの レモンで食べる キヤベツかな
 - 横綱も 二連敗で 舌を出し
 - 高山も 白い帽子で おはようと
 - ふるさとに 杉の大木 美しく
 - 日本晴れ 落ち葉なくして きれいだよ
 - 日があたり 公民館にも 春が来た
 - 夕闇の 学校跡に 雪あられ
 - 冬眠の 蛙を起こし 溝掃除
 - 暖冬や 鎌を持つ手も 天仰ぐ
- 館長 館長 館長 知歎 知歎 知歎 正 正 正 正 正 正 正 正